

## 期待された未来を生きる

四街道市立四街道北中学校 3年 本間 紗紀

私には小学生の弟がいる。生まれつき障害があり、今でも定期的にリハビリをしに病院に通っている。夏休みに私は父と一緒に弟のリハビリ病院について行きその様子を見学させてもらった。

理学療法士の先生が付きっきりでハサミを使う訓練やボタンを穴に通す訓練をしてくれている。段階に合わせて用意されている道具や設備。手作りのようなものもあり先生たちの情熱を感じることができた。周りを見渡すと、同じようにたくさんの中学生たちが療育を行なっていた。その後主治医の先生に診察してもらい、今後の計画などを話してくれた。

こんなにもたくさんの専門家が弟達のために尽力してくれていることに感謝したとともに、この医療行為がすべて無料だと聞かされて本当に驚いた。税金の補助がなかったら、今のように通うことはできないかもしれないね、ありがたいことだと父は言った。

私の住んでいる四街道市は子供の医療費が無料であるのはもちろん知っていた。財源が税金というものであることも何となくわかつていたが消費税くらいしか払ったことのない私はどれくらいの税金が納められ、どこに使われているのかなど深く考えたことがなかった。こんなに専門的な設備の使用料まで賄うことができる税金というのに興味をもち、自宅に戻り早速調べてみると、医療費の助成には市の税金が四億円以上使われていた。小学校も中学校も自己負担だと年間で百万円近くのお金がかかる事がわかった。それだけではない。私が所属していた部活動の大会も、通っている図書館もすべて税金で賄われていた。

私の両親が支払っている税金も教えてもらった。中学生の私にとってはとても高額だと感じたが支払うのは嫌ではないのかと母に聞いたら、それがきちんと国民のために使われ、少しでも子供たちの未来に役立つのであれば喜んで払わせてもらうのよ、と笑っていた。

私はその言葉を聞いて、ある言葉を思い出した。

「この教科書は、これから日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で提供されています。大切に使いましょう。」

いつも年度の初めに配られるまっさらの教科書の裏表紙に書いてある言葉だ。そして、先生はいつも配る時に言っていた。

「教科書は無料じゃないんだぞ。大事に使いなさい。」

今ならその言葉の真意がわかる。

弟のリハビリも、私の学校生活も私たちの未来のために税金を支払ってくれている皆さんからの期待が込められている。だから私はそれを無駄にすることがないように、しっかりと期待に応えられるように生きていかなければならぬ、と思った。そして将来につなげていくために立派な納税者になりたい。